

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
平成27年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム  
「発達障害者の特性別評価法 (MSPA) の  
医療・教育・社会現場への普及と活用」

採択年度 平成26年度

実装責任者氏名 船曳 康子

(京都大学 大学院 人間・環境学研究科、准教授)

## 1. 概要

MSPAの幼児版、小学生版、中学生版、高校生版、就労支援版、子育て支援版の作成のために、それぞれワーキンググループにて、それぞれの現場のニーズを調査し、行動観察項目や支援における留意点について整理した。MSPA記録用紙・MSPA事前調査質問紙・MSPA実施説明書及び同意書を作成し、ワーキンググループミーティング（5回開催）や事例検討会（別に5回開催）を通じて推敲した。

また、平成28年度に開催するMSPAの講習会の準備として、平成27年8月4日に京都府総合教育センターにて、「MSPA(発達障害評価チャート)によるアセスメント」講座を開催した。模擬事例を作成し、スタッフメンバーにより実演を行いながら、100名規模の学校・保育現場の教育関係者を対象に評定練習と年齢層別の討論会も行った。さらには、LD学会や児童青年精神医学会などの各種学会にて、研修会を開催し、普及に努めた。実地の詳細は、報告書の通りである。

なお、地域の複数の幼稚園にて、各年齢別に定型発達の幼児を対象とした調査を行った。

国際化に向けて、作成したマニュアルを順次、英文化し、海外の協力者に働きかけ、各国での試用を開始した。

更に、2016年4月より、保険収載の適応の見通しとなった。

## 2. 実装活動の具体的内容

### 【会議・事例検討会】

以下のように全体およびグループ毎の会議を開き、話し合いながら進めていった。

#### ・MSPA幼児版グループミーティング

日時：平成27年4月25日(土) 18時00分～21時15分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

内容：MSPAで評価する特性のうち、コミュニケーション・集団適応力・共感性・こだわり・感覚について、幼児の特性を整理した。

#### ・MSPA幼児版グループミーティング

日時：平成27年5月9日(土)18時00分～22時00分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

内容：MSPAで評価する特性のうち、反復運動・粗大運動・微細協調運動・多動・衝動性・睡眠リズムについて、幼児の特性を整理した。

#### ・平成27年度第一回関係者全体会議

日時：平成27年6月20日(土) 16時00分～18時30分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

内容：幼児版会議の内容を全体で共有した。また、MSPA評定の際に参考資料として用いるMSPA事前調査質問紙の素案作成者を割り振った。

・MSPA小中高版合同グループミーティング

日時：平成27年7月26日(日) 13時00分～17時30分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

内容：MSPA事前調査質問紙の素案を推敲し、MSPA評定用紙の小中高版の文言についての確認を行った。

・MSPA就労支援版グループミーティング

日時：平成27年7月27日(月) 19時00分～21時30分

場所：京都大学大学院人間・環境学研究科 吉田南2号館212号室

内容：MSPA事前調査質問紙を推敲した、またMSPA評定用紙に新たにチェックポイントを追加することとし、就労支援版のチェックポイントについて整理した。

・平成27年度第二回関係者全体会議

日時：平成27年8月29日(月)14時00分～19時00分

場所：京都大学大学院人間・環境学研究科 吉田南2号館212号室

内容：MSPAの講習会でを行うロールプレイについて確認をした。またMSPA記録用紙・MSPA事前調査質問紙・MSPA実施説明書及び同意書について確認し、必要に応じて遂行した。

・MSPA子育て支援版グループミーティング

日時：平成27年9月5日(日) 13時30分～16時30分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

内容：子育て支援版のチェックポイントについて、担当者の素案を基に推敲した。

・平成27年度第一回事例検討会

日時：平成27年11月22日(日) 13時30分～17時00分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

中1女子の事例 これまでに作成したMSPA記録用紙・MSPA事前調査質問紙・MSPA実施説明書及び同意書を実際に用いて事例検討を行い、必要に応じて内容の確認を行い、書類を修正した（事例検討会では以下同様）。

・平成27年度第二回事例検討会

日時：平成27年11月28日(土) 14時00分～17時30分

場所：京都大学こころの未来研究センター別館・セミナー室1  
小3男子の事例

・平成27年度第三回事例検討会

日時：平成28年1月9日(土) 14時00分～16時30分

場所：京都大学こころの未来研究センター別館・202

中2女子の事例

・平成27年度第四回事例検討会

日時：平成28年1月17日(日) 14時30分～17時00分

場所：京都国際社会福祉センター  
成人（子育て中の母親）の事例

・平成27年度第三回関係者全体会議

日時：平成28年2月7日(日) 13時00分～16時00分

場所：京都大学大学院人間・環境学研究科 吉田南2号館212号室

内容：進捗状況（MSPA評価用紙・MSPA事前質問紙の作成，幼稚園調査等）の確認，MSPA講習会について

・平成27年度第五回事例検討会

日時：平成28年2月14日(日) 13時30分～17時00分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

高校2年生男子の事例

・平成27年度第六回事例検討会

日時：平成28年3月6日(土) 9時30分～12時30分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

大学3年生女子の事例

#### 【調査】

日時：平成28年2月～3月

場所：京都市内および高槻市内の幼稚園・大学（個人情報特定につながるため記載を省略する）

定型発達の幼児（計44名）を対象としたMSPA評定を行うため、その保護者を対象とした質問紙調査および面接調査を行った。また幼稚園の教諭にも質問紙調査を実施した。

定型発達の成人（計2名）を対象としたMSPA評定を行うため、本人を対象とした質問紙調査および面接調査を行った。

#### 【京大病院での研修】

昨年度に引き続き見学、研修制度を進め、新たに信頼性のある評価者を輩出し、効率の良い手法を検討した。

### 3. 理解普及のための活動とその成果

#### （1）展示会への出展等

該当なし

#### （2）研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

| 年月日     | 名称                | 場所            | 概要                                | ステークホルダー           | 社会的インパクト                 |
|---------|-------------------|---------------|-----------------------------------|--------------------|--------------------------|
| 平成27年7月 | 神戸市発達障害者支援センター研修会 | 神戸市発達障害者支援センタ | 参加人数:60名<br>MSPAの開発背景・特徴・活用方法について | 神戸市発達障害者支援センター(船曳) | 福祉関係者がMSPAの概念や活用方法を知ったこと |

|             |   |             |   |   |   |
|-------------|---|-------------|---|---|---|
| 10日         | 「発達障害の特性理解用評価法について」   | ー           | 講義を行った。   |   | で、地域の連携ツールとしてのMSPAの活用が期待される。                            |
| 平成27年7月11日  | 第18回有床総合病院精神科フォーラム シンポジウムⅡ「総合病院での児童精神科の魅力」<br>演題:他科や地域とつながりのための連携ツール              | 札幌市立大学      | 参加人数:80名<br>MSPAの開発背景・特徴・連携ツールとしての利点について話題提供を行った。                     | 日本総合病院精神医学会(船曳)                                 | 医療関係者がMSPAの概念や活用方法を知ったことにより、臨床現場での応用可能性の促進が期待される。       |
| 平成27年8月4日   | 京都府総合教育センター研修会「MSPA(発達障害評価チャート)によるアセスメント」講座                                       | 京都府総合教育センター | 参加人数:100名<br>MSPAの概要・活用方法について講義した後、事例を用いた演習を行った。                      | 京都府総合教育センター(船曳・清水・青山・鋒山)                        | 教職員がMSPAの概念や活用方法を知ったことにより、特別支援教育の推進が期待される。              |
| 平成27年10月3日  | 公開講座「共生社会に向けて」<br>講演「多様な人と共に生きるには」  | 京都大学楽友会館    | 参加人数:60名<br>市民向けにMSPAの概念を用いながら発達障害の捉え方について説明した。                       | 京都大学人間・環境学研究科(船曳)                               | 一般市民がMSPAの概念を通じて発達障害特性の理解を深めたことで、発達障害の正しい理解が広がると期待される。  |
| 平成27年10月1日  | 第56回児童青年精神医学会総会「Multi-Dimensional Scale for PDD & ADHD (MSPA) の使用方法について」          | パシフィコ横浜     | 参加人数:50名<br>医療現場におけるMSPAの使用法について研修を行った。                               | 児童青年精神医学会(船曳)                                   | 医療関係者(主に医師)がMSPAの概念や活用方法を知ったことにより、臨床現場での応用可能性の促進が期待される。 |
| 平成27年10月11日 | 日本LD学会第24回大会自主シンポジウム「発達障害の「一面的な捉え方」から「多面的な特性把握」へ～MSPA(発達障害用の要支援度評価スケール)の活用を目指して～」 | 福岡国際会議場     | 参加人数:80名<br>発達障害の多面的な特性把握の必要性についての事例報告やMSPAについての情報共有した後、フロアを交えて、議論した。 | 日本LD学会(小川・田村・畷田・鋒山)<br>注:話題提供者については、(6)口頭発表にも記載 | 教職員等がMSPAの概念や支援の実践を知ったことにより、特別支援教育の推進が期待される。            |

|                         |   |                     |   |  |   |
|-------------------------|---|---------------------|---|--|---|
| 平成<br>27年<br>10月<br>11日 | 日本LD学会第<br>24回大会自主シ<br>ンポジウム「学校<br>現場における発<br>達障害用の要支<br>援度評価スケ<br>ール(MSPA)の活<br>用 ～ アッセメ<br>ントから支援へど<br>うつなげるか～」 | 福岡国際<br>会議場         | 参加人数:90名<br>学校現場でMSPAをど<br>のように活用できるか、<br>その可能性を探ると共<br>に、現状の特別支援教<br>育における課題につい<br>てフロアを交えて議論し<br>た。 | 日本LD学会<br>(清水・船曳・<br>鋒山・鈴木・青<br>山)<br>注:話題提供<br>者について<br>は、(6)口頭発<br>表にも記載 | 教職員等がMSPA<br>の概念や支援の実<br>践を知ったことによ<br>り、特別支援教育の<br>推進が期待される。  |
| 平成<br>27年<br>10月<br>17日 | 支える人の学び<br>の場 先生のため<br>のこころ塾<br>2015 実践報告   | 京都大学<br>稲盛財団<br>記念館 | 参加人数:100名<br>MSPAを用いた支援の<br>実践について報告し<br>た。   | 京都大学<br>こころの<br>未来研究<br>センター<br>(小川<br>・田村)                                | 教職員がMSPAの<br>概念や支援の実践を<br>知ったことにより、特<br>別支援教育の推進<br>が期待される。   |
| 平成<br>27年<br>11月<br>21日 | 支える人の学び<br>の場 医療専門<br>職のためのこ<br>ころ塾2015<br>講義「治す・つ<br>きあう」のバラ<br>ンスとその支援  | 京都大学<br>稲盛財団<br>記念館 | 参加人数:100名<br>MSPAの開発背景・特<br>徴・活用方法について<br>講義を行った。   | 京都大学<br>こころの<br>未来研究<br>センター<br>(船曳)                                       | 医療関係がMSPA<br>の概念や活用方法を<br>知ったことにより、<br>臨床現場での応用<br>可能性の促進が期<br>待された。                                |
| 平成<br>27年<br>12月<br>19日 | 発達障害の「一<br>面的な捉え方」<br>から「多面的な<br>特性把握」へ<br>～MSPA(発達<br>障害用の要支援<br>度評価スケ<br>ール)を用いて～                               | 与謝野町<br>中央<br>公民館   | 参加人数:20名<br>MSPAの概要について<br>講義した後、発達障害<br>の多面的な特性把握の<br>必要性について事例を<br>用いて説明した。                         | S.E.N.Sの<br>会京都支部会<br>(小川)   | 教職員やS.E.N.S.<br>(特別支援教育士)<br>の有資格者が<br>MSPAの概念を通じ<br>て発達障害特性の<br>理解を深めたことで、<br>特別支援教育の推<br>進が期待される。 |
| 平成<br>28年<br>2月<br>26日  | 発達障害の子ど<br>もを対象とした<br>学習支援ついで<br>の研究交流会   | 作新学院<br>大学          | 参加人数:15名<br>MSPAの概要について<br>講義した後、MSPAを用<br>いた学習支援事例を紹<br>介した。   | 研究会主催:<br>作新学院大学<br>大学院日高茂<br>暢先生<br>(小川)                                  | 教職員や支援者を<br>目指す学生が<br>MSPAの概念を通じ<br>て発達障害特性の<br>理解を深めたことで、<br>特別支援教育の推<br>進が期待される。                  |

(3) 新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等  
特記すべき事項なし

（４）論文発表（国内誌 4件、国際誌 3件）

1. Rescorla LA, Achenbach TM, Ivanova MY, Turner LV, Althoff RR, Au A, Bellina M, Caldas JC, Chen YC, Csemy L, da Rocha MM, Decoster J, Fontaine J, **Funabiki Y**, Gudmundsson H, Harder VS, Leung P, Ndeti DM, Maras JS, Marković J, Oh KJ, Samaniego VC, Sebre S, Silveiras E, Simulioniene R, Sokoli E, Vazquez N, Zasepa E. Problems and Adaptive Functioning Reported by Adults in 17 Societies. *Int. Perspectives in Psychology*. 2016.
2. **Funabiki Y**, Mizutani T, Murai T. Fine motor skills relate to visual memory in autism spectrum disorder. *Journal of Educational and Developmental Psychology*. 2015;5(1):88-96.
3. Ivanova MY, Achenbach TM, Rescorla LA, Turner LV, Árnadóttir HA, Au A, Caldas JA, Chaalal N, Chen YC, da Rocha MM, Decoster J, Fontaine J, **Funabiki Y**, Gudmundsson HS, Kim YA, Leung P, Liu J, Malykh S, Marković J, Oh KJ, Petot JM, Samaniego VC, Silveiras EFM, Simulioniene R, Sobot V, Sokoli E, Sun G, Talcott JB, Vázquez N, Zasepa E. Syndromes of Self-Reported Psychopathology for Ages 18-59 in 28 Societies. *J Psychopathology and Behavioral Assessment*. 2015;37(2):171-83.
4. 船曳康子、村井俊哉. ASEBA 行動チェックリスト（18～59 歳成人用）の標準値作成の試み. *臨床精神医学*. 2015;44(8).
5. 船曳康子. MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) 「発達障害用の要支援度評価スケール」. *児童青年精神医学とその近接領域*. 2016.
6. 船曳康子. 不適応行動をアセスメントする-ASEBA 行動チェックリスト. *臨床心理学*. 2016; 16(1)
7. 船曳康子. 発達障害の特性理解とこれから. *児童青年精神医学とその近接領域*. 2015; 56(3): 329.

（５）WEBサイトによる情報公開

<https://sites.google.com/site/fnabikilaboratory/information>

（６）口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

①招待講演（国内会議 1 件、国際会議 0 件）

船曳康子（京都大学大学院人間・環境学研究科）「Multi-Dimensional Scale for PDD & ADHD (MSPA) の使用法について」第56回児童青年精神医学会総会、パシフィコ横浜、平成27年10月1日

②口頭講演（国内会議 7 件、国際会議 0 件）

田村綾菜（愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所）、発達障害のある児童への学習支援の実践を振り返って（自主シンポジウム「発達障害の「一面的な捉え方」から「多面的な特性把握」へ ～ MSPA（発達障害用の要支援度評価スケール）の活用を目指して～」内での話題提供）、日本LD学会第24回大会、福岡国際会議場、平成27年10月11日

畠田裕子（京都大学医学部附属病院 精神科神経科）、特性把握を活かした就労支援とは（自主シンポジウム「発達障害の「一面的な捉え方」から「多面的な特性把握」へ ～ MSPA（発達障害用の要支援度評価スケール）の活用を目指して～」内での話題提供）、日本LD学会第24回大会、福岡国際会議場、平成27年10月11日

小川詩乃（京都大学大学院人間・環境学研究科）、MSPA（発達障害用の要支援度評価スケール）の紹介（自主シンポジウム「発達障害の「一面的な捉え方」から「多面的な特性把握」へ ～ MSPA（発達障害用の要支援度評価スケール）の活用を目指して～」内での話題提供）、日本LD学会第24回大会、福岡国際会議場、平成27年10月11日

船曳康子（京都大学大学院人間・環境学研究科）、医療の手前のできることは（自主シンポジウム「学校現場における発達障害用の要支援度評価スケール（MSPA）の活用 ～ アセスメントから支援へどうつなげるか～」内での話題提供）、日本LD学会第24回大会、福岡国際会議場、平成27年10月11日

鋒山智子（京都府総合教育センター）、校内での教育相談にMSPAを活用（自主シンポジウム「学校現場における発達障害用の要支援度評価スケール（MSPA）の活用 ～ アセスメントから支援へどうつなげるか～」内での話題提供）、日本LD学会第24回大会、福岡国際会議場、平成27年10月11日

鈴木英太（向日市立勝山中学校）、中学校現場におけるMSPAの活用（自主シンポジウム「学校現場における発達障害用の要支援度評価スケール（MSPA）の活用 ～ アセスメントから支援へどうつなげるか～」内での話題提供）、日本LD学会第24回大会、福岡国際会議場、平成27年10月11日

上月遥、川岸久也、志波泰子、村井俊哉、船曳康子. 発達障害外来受診者の睡眠リズム障害－ADHD 関連項目の検討－第56回児童青年精神医学会総会. パシフィコ横浜. 2015年10月1日.

③ポスター発表（国内会議    0件、国際会議    0件）

**（7）特許出願**

なし

**（8）その他特記事項**

特記すべき事項なし